

環境教育

Report

2019 Vol.8

CONTENTS

小沢鋭仁特任教授からの言葉	P.1
1年生フレッシュマンセミナー& 2・3年生フィールドワーク	P.2
学習支援ボランティア	P.3
緑苑祭 環境教育学科 活動レポート	P.4
緑苑祭学科企画/学科シンポジウム	P.4
先輩に聞きました	P.5
オーストラリア クイーンズランド大学 環境保全&英語研修	P.6
インターンシップに行ってきました!/ 我らレジ袋減らし隊!	P.7
教えて研究室!	P.8



地球は、生き物がいる奇跡の星、その地球が、今、苦しんでいる。人類、つまり、我々、人間の活動が原因となって起こっている地球温暖化が進行し、さまざまな環境変化が生じている。世界平均地上気温は、産業革命以前に比べ0・85℃上昇し、南極、北極の氷がとけ出し、氷河は、ほぼ世界中で縮小し続けている。海面は、0・19m上昇し、南太平洋の島国ツバルは水没の危機に直面している。昨今の我

の暮らす地球だけなのだ。地球は、生き物がいる奇跡の星、その地球が、今、苦しんでいる。人類、つまり、我々、人間の活動が原因となって起こっている地球温暖化が進行し、さまざまな環境変化が生じている。世界平均地上気温は、産業革命以前に比べ0・85℃上昇し、南極、北極の氷がとけ出し、氷河は、ほぼ世界中で縮小し続けている。海面は、0・19m上昇し、南太平洋の島国ツバルは水没の危機に直面している。昨今の我



タイのシラチャという街の動物園にて。

奇跡の星地球をまもろう

特任教授 小沢鋭仁

が国のゲリラ豪雨、大規模な水害、台風の巨大化など、私達の暮らして多大な影響を及ぼしている出来事も温暖化が原因なのだ。生き物たちにも当然影響が生じている。森林が減少し、干潟が失われ、毎日、約10種、年間4万種の絶滅が起こっているといわれている。生き物のいる唯一の星地球の環境を守り、私たちの日々の暮らしを安全で豊かなものにしていかなければならない。国際的な取り組み、国内的な取り組み、私達自らの取り組み、様々なレベルでの取り組みが不可欠なのだ。原因を解明し、緩和、除去していく、そのためには、何をすることが必要か、あるいは、災害を防ぐためにはどんな施策が必要か、そういったことを学ぶのが環境学なのだ。地球規模のダイナミックな対応を考えるために国際的な視野を持つ。生物多様性を守るためには、顕微鏡でしか見えない小さな命を見つめる繊細さも必要だ。環境の勉強は、広くて深い。さあ、学びの海に漕ぎだそう。そして、命ある星、地球を一緒に守っていきましょう!

1年生フレッシュマンセミナー&2・3年生フィールドワーク

1年生 フレッシュマン セミナー

(担当/常盤)

私たち環境教育学科1年生は、入学してすぐに導入教育として埼玉県の秩父、長瀬に散策しに行きました。まず私たちは秩父の橋立鍾乳洞へ向かいました。橋立鍾乳洞は、武甲山の西端の麓に位置する秩父三十四か所二十八番石龍山橋立堂に隣接する入口と出口の高低差が約33mと、全国でも数少ない縦穴の鍾乳洞です。鍾乳洞内は広くなり狭くなり屈曲したりなど奇形な文様をなしており、また弁天大黒、菩薩、五百羅漢などの名称がついた鍾乳石・石柱・石筍が数多く点在し、古くからの信仰の跡が感じられました。

次に長瀬に向かいました。長瀬は東京都北区、板橋区を流れる荒川の上流にある町です。まず私たちは養浩亭という旅館で春野菜や秩父名物おっ切り込みうどんを堪能しました。その後ライン下りをする予定でしたが、連日の晴天の影響で川の水が少なく遊覧になってしまいました。ですが500m以上にわたる長さの岩畳、その対岸にある秩父赤壁と呼ばれる絶壁、岩畳で青く淀んだ荒川は芸術品のような美しさで、船頭さんの個性的なガイドでも楽しめました。最後にいちご狩りに行きました。2種類の甘くてジューシーないちごを食べることができ、とっても幸せなひと時を過ごすことができました。

今回のフレッシュマンセミナーは1日という短い時間でしたが、学科のみんなと壮大な自然の中で普段ではなかなかできない貴重な体験をすることができました。

2年生 フィールド ワーク

(担当/安田)

2年生のフィールドワークでは、神奈川県相模原市にある不耕起栽培を行っている大家族というグループの方々に不耕起栽培無農薬の田んぼでの農業体験をさせていただきました。

通年で5月に草刈りと耕作田植え、6月に草刈り、10月に稲刈りと3回の実習を体験させていただきました。

5月の田植えでは雑草抜きから行いましたが、農薬を使っていないため雑草の生命力がとても強くかなり根気のある

作業でした。また様々な生物、虫がたくさんいてとてもいい環境で稲が育つことができると感じました。6月の稲刈りでは稲と雑草を、間違えないように気をつけながら雑草を抜きました。

10月の収穫は、自分達で植えた稲を刈る作業でしたが、まだ残る水気のある田んぼの中にはいっていくと、5、6月に負けない多くの生物がいました。

リレー方式で刈るひと、束ねる人を、交代で行い最後は稲架(ハサ)となる棒に沢山の稲を干しました。自分達が行った作業の一連の流れは一部ではありましたが、落ちている稲穂1本1本がとても貴重に感じました。そして田んぼの端から端まで落穂ひろいをしました。

大家族の皆さんは無農薬や不耕起栽培の大切さを広めるため無農薬のお米をつくり自然と共生しながら農業を行う大切さを伝える活動をしていました。

無農薬のお米がなぜ美味しいか、無農薬栽培ということにどのような意味があるのか、なぜ今は新米が美味しいとされるようになったのか教えていただきました。

今、日本では無農薬栽培を行っている農家に関わらず、農家全体が減少している現状となっています。その理由の一つとして労力がかかることと農業者の全体的な減少、高齢化が原因となっています。今回の実習は全部で3回程の活動でしたが、今回の活動で私たちが普段食べているお米をつく



る大変さや、一つの物を育てるために様々な工夫と、多くのひとが関わっているということがよくわかりました。環境を考慮した農業の素晴らしさや魅力を私たちの世代が次の世代に継いでいかなければいけないと実感しました。

3年生 フィールド ワーク

(担当/鈴木)

環境教育学科3年生のフィールドワークは、板橋区にあるエコポリスセンターとの協定事業でした。エコポリスセンターでは板橋区の小中学生を対象に、子どもたちが夏休みの自由研究で使えるような工作や実験をするエコスクールを開催しており、そのうちの数日を私たちが担当しました。

私が担当した日のエコスクールは、紙のリユースについて楽しく知ってもらうことを目的としたものでした。エコスクールの流れは前半に3Rを主としたエコな話をし、後半にボックスティッシュの空き箱、6Pチーズの空き箱、お菓子の包み紙やパッケージ、どんぐりやビーズなどから福引きを作るといったものでした。

エコスクールに向けての準備では、環境に関する講義を受け、また子どもたちとの接し方のポイントを学びました。さらに実際にエコスクールの見学もしました。子どもたちの接し方のポイントを学習した際に、私はアイスブレイクというものを知りました。アイスブレイクは子どもたちと打ち解けるために行うもので、気遣いや言葉遣いだけではなく、場の雰囲気づくりの大切さを学びました。また、エコスクールの中で話すエコな話にはクイズを多く取り入れ、子どもたちが最後まで飽きないように工夫しました。

エコスクール当日、私自身が普段、子どもたちと接する機会がなかったため、分かりやすく物事を伝えることができたかなど不安がありました。エコポリスセンターの方々からのアドバイスもあり、子どもたちと打ち解けることができました。また、様々な学年の子たちに対しどこまで手を貸すのかという練習では想定しきれなかった点も随時考え、判断をして、行動にうつすことができました。

最後にエコスクールの反省会では、参加した子どもたちとその保護者様からの感想を拝見しました。子どもたちの感想のなかに「楽しかった」、「また参加したい」というものが多く見受けられすごく達成感を感じることができました。

授業を通してたくさんの生徒の皆さんと 学校生活を過ごさせていただけ、 毎週の1日が濃いものとなりました。

板橋区では、区立小・中学校の各教科で基礎的な学習の充実を目指し、チームティーチングや少人数グループによる授業を学習支援ボランティアの方と協力し行っています。主に、大学等で教職課程や臨床心理学を専攻する学生を配置し、学力向上及び校内体制の充実を図ることが目的とされています。支援員の主な職務内容は、

チームティーチングや少人数グループによる授業の補助、校内における生活や学習の一部支援補助です。

この度私は、板橋区学習支援ボランティアに登録し、板橋区立志村第二中学校で3カ月間ボランティア活動をさせていただきました。志村第二中学校では、学力向上と定着を目指し、問題解決型・探究型の授業、また協働学習を取り入れた授業革新、各教室に電子黒板や書画カメラを導入した学習環境の整備とともに、よりよい授業づくりに努められています。



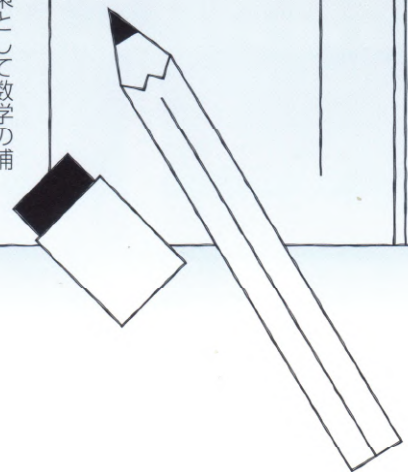
勤務は週1回8時〜16時、教科は理科と英語を担当しました。理科の授業では主に、実験の操作法や器具を扱う際の注意点等の補助を行いました。英語の授業では、ペアワークや教科書の暗唱のテストを行いました。

た。放課後には3年生を対象に受験対策として数学の補習を行い、生徒がつまづいた問題に対するヒント、解説等を補助を行いました。

現職の教諭の方とお話させていただいた際、「公立の中学校では、学力や家庭状況が様々な生徒が同じ空間で過ごし、勉強する。そんな運営が難しい環境だからこそ、公立の学校は教師としてやりがいがある。」とおっしゃられていたことがとても印象に残りました。いろんな事情を抱える生徒を学年やクラスでまとめる責務は大きいと思いますが、だからこそ生徒の成長を見て感じたときは、嬉しくも、またやりがいを感じるのだと考えさせられました。私自身、私学の教員を目指しておりましたが、この度公立の学校で過ごさせていただき、公立校の良さや課題等を間近で感じる事ができ、とても実りのある時間となりました。

この度のボランティア活動では、授業を通してたくさんの生徒の皆さんと学校生活を過ごさせていただき、毎週の1日が濃いものとなりました。生徒の皆さん、教職員の方々から多方面に渡り学ぶことが多く、私自身成長させていただきました。志村第二中学校の生徒の皆さん、教職員の方々、3カ月間ありがとうございました。

(担当/根津)



緑苑祭

環境教育学科活動レポート

Report

緑苑祭学科企画

10月27日(土)、10月28日(日)に第58回緑苑祭が開催されました。今年度は天気にも恵まれたおかげか沢山の方々にお越しいただきました。環境教育学科では今年度も学科企画として様々な実験プログラムを計画して緑苑祭に参加しました。今年度も老若男女問わず楽しんで化学実験を体験することができるとは嬉しい限りです。

4号館前の広場では2種類のプルルが用意され、お水にお絵描き&シャボン玉遊びと題した企画が行われていました。そこでは熱心にオブラートにイラストを描く姿、興味津々に水面を覗き込む姿、大きなシャボン玉を作ろうと頑張る姿や、たくさんのシャボン玉に囲まれてはしゃぐ姿など様々な姿が見られました。また、4号館3階の環境化学実験室ではアロマキャンドル・合成ルビー・ストームグラス(19世紀に天気を判断するために使われた器具)・レジンアクセサリーの4つの工作実験が行われました。それぞれの実験が異なる時間に行われていたので、何度来ても楽しめる内容になっており、1つの実験が約15〜30分程度なので気軽に立ち寄れるものでした。アロマキャンドル

学科シンポジウム

(担当/狩野)

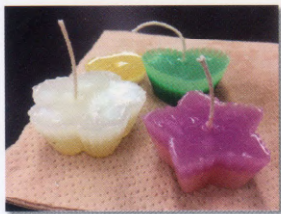
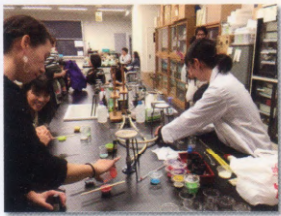
平成30年10月27日(土)に開催された緑苑祭で環境教育の学科シンポジウムが行われました。内容は「飯館村の母ちゃんたち 土とともに」の監督であ

る古居みずえ様が来てくださり、本科の新聞先生とトークショーをしたり、映画のピックアップ箇所を上映し、その部分についての話などをしてくださ

(担当/甲賀)

ル作りでは数種類の香りから自分の好きなものを選んで自分好みのキャンドルを、合成ルビー作りでは2種類の粉末を乳鉢で擦り混ぜアルミホイルに包んで電子レンジを使い酸化させて人工的な宝石を、ストームグラス作りでは複数の薬品を計量・混合したものをガラスドームに詰めてストラップを、レジンアクセサリー作りではレジン液(紫外線で硬化する樹脂)を使ってオリジナ

ルのアクセサリーを作っていました。実際に私自身もストームグラス作りに参加し、意外にも身近なものに使用されている薬品だけでできることにとても驚きを感じました。自作のストームグラスは完成後2日程経った後、羽のような美しい結晶ができました。作り終えてから数日待つて結果が出る、日によって結晶の大きさや形が違ふなど多くの人にとっても長期間に渡って楽しめるものになったと思います。実験室にしが無いような器



具を使って計量・混合を行っていましたが、小さなお子様や実験器具を扱った経験が少ない方でも担当の学生のサポートを受けながらうまく作れている様子でした。また、実験内容や手順、反応の仕組みなどが書かれた学生手作りの資料も配布しており、自宅でも当日やった内容を見返すことができ、自分の作った作品とともに印象に残る工夫がなされていました。

古居みずえ様は普段女性や子供を中心とした問題をパレスチナで取材活動をしているそうなのですが、東日本大震災で起きた原発事故がパレスチナ難民と重なりこの映画を作ったきっかけになったそうです。

この「飯館村の母ちゃんたち 土とともに」という映画は平和で幸せな生活から原発事故で一転し、避難し仮設住宅に住む事になった女性が、なんとか友人と励まし合い、楽しく生きて行こうとするドキュメンタリー映画です。印象に残ったのは仮設住宅に住むことになってからやるのがなくなり、みんなも暗くなっていくのですが、食べる物は自分で作る、が信条の榮子さんという方をはじめ、その友達や村の人と一緒に様々な食物を育てて収穫し、料理を始めます。それから、村の食文化を途絶えさせたくなく、昔ながらの味噌や凍み餅(しみもち)の作り方を教えに各地を回りはじめていったところ

です。また、食事や料理中のシーンが沢山出てきたのですがとても美味しそうでした。

最後に凍み餅が配られました。凍み餅は福島県の郷土料理で餅を水に浸して凍らせたものを寒風にさらして乾燥させたものです。また、オヤマボクチという野草が入っているので食物繊維が多いので健康に良いです。

東日本大震災から7年経ち、記憶が薄れていってますが、この講義で改めて、災害の深刻さや、その人達のために何ができるのかを考えてみようと思いました。

先輩に聞きました!

現場の第一線でご活躍されている

環境教育学科の先輩方から

貴重なコメントを頂きました!!

より効率の良いスマートなシステムを作るにはどうすれば良いか考え、形にすることが魅力です。



平成29年度卒
寺田恵美子さん
緑屋情報システム株式会社 勤務

●今なされているお仕事の内容について教えてください。

ITコンサル系の会社でシステムエンジニアをしています。主な仕事内容としては、クライアント(企業)の基幹システムの設計・開発・テストです。

●今のお仕事の魅力ややりがい、反対に大変なことなどはありますか?

クリエイティブな仕事であるというところでしようか。クライアントの要件を満たすシステムを作ることが一番大切ではありますが、要件を満たした上で、より効率の良いスマートなシステムを作るにはどうすれば良いか考え、形にすることが魅力です。どんな職業にもあてはまることですが、お客様を相手にする仕事なので遅延というものが許されないうため、スケジュール管理をしっかりしないといけない点です。

●環境教育学科で学んで良かったことは何ですか?

実際の仕事で、大学で学んだ知識を直接使うことはありません。ほと

んどの方がそうだと思います。

他の点でいえば、自分で考え行動し、形にすることです。私は生物有機化学研究室に所属していましたが、自主性を重んじる研究室でした。

どうすれば良いのか、考え悩んだことがたくさんありましたが、今となっては仕事にとても活きています。

●最後に学生時代にやっておいた方が良いことはありますか?

仕事を始めるとまとまった休みを取ることが難しくなってくるため、大学生のうちにかくさん遊んでおくことですかね(笑)もちろん、学業との両立は大切です。

●ありがとうございました。(担当/大森)

就職活動で私が大切にしていたことは、積極的に話すことと自然体でいることです。



平成30年度卒
福澤緋里さん
株式会社ファミリーマート 勤務
総合職

●仕事内容

スーパードバイザーと呼ばれる職業に採用されました。ファミリーマートと言われると、店頭で商品を売る仕事というイメージが強いと思います

すが、ファミリーマートの制服を着ることはほとんどありません。スーパードバイザーは自分が担当するエリアの店舗を複数回って、その店舗のオーナーさんと一緒にどうすれば売り上げがよくなるのか、店舗の人間関係や商品棚のチェック清掃状況など管理をする仕事です。

ファミリーマートはコンビニ業界で唯一、日本の企業です。日本ならではのサービスや商品を提供しコンビニ業界NO.1を目指します。

●仕事を選んだ理由

自分の将来について考えた時に、身近な部分で人と関わり、多くの人を楽しませ、喜んでもらえる仕事に就きたいと考えたようになりました。年間、何億人がコンビニを利用しています。そんな多くの人を利用し、またおもしろく話題性のある商品が置いてあるコンビニで、地域や社会に貢献していきたいと思いました。十条にもファミリーマートが何店舗あると思います。その中で、同じ名前のコンビニなのに求められるニーズの違いから置いてある商品が違うことを感じました。また、なかでもファミリーマートは企業とのコラボ商品が、他にはなくおもしろい発想のものが多いと思います。ファミリーマートなら多くの人を楽しませ喜ばせることができると思いました。

●仕事の魅力

私が提案した商品の置き方によって、より多くのお客様が手に取ってください、またそれが店舗の売り上

げに貢献することができた時です。

目標にしていることをその店舗のオーナーさんとクリアし、オーナーさんとの作り上げた絆がやりがいのひとつだと思います。またその信頼関係から、オーナーさんから相談を受けた時には、もっと頑張らなくてはと思います。

●学生時代と就活のアドバイス

アルバイトやサークル活動といった課外活動は多くしたほうが良いと思います。自分から積極的に取り組むことで自分自信を変えられるチャンスに繋がっていく、また就職活動の時には必ず「学生時代に力を注いだことはなんですか。」と聞かれるでしょう。今から多くの課外活動に取り組み、沢山のネタを作っておいてください。絶対に役に立ちます!

就職活動で私が大切にしていたことは、積極的に話すことと、緊張してしまふけれど自然体でいることです。そのために、学生時代は多くの友人と話すことを心がけていました。いつも同じ友達と話すだけでなく、まだ話したことがない仲間とも話してみてください。自分の世界がどんどん広がると思います。就職活動では、知らない人と一つの課題に向かって取り組むことが当たり前で、毎日のようにあります。その時に、初めて会う人でも自分らしく話すことができます。ありのままの自分で!本当に、ありのままのあなたを受け入れてくれる会社は絶対にあります。頑張ってください!

(担当/狩野)

平成30年2月3〜17日までの2週間、学生9名と引率の吉原先生と共にオーストラリアにて環境保全&英語研修が実施されました。

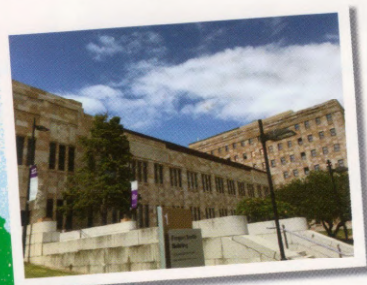
英語の授業では、英文法や英会話から、オーストラリアとアメリカでの発音の違い、さらにはオーストラリアの動物や環境問題、文化について幅広く学びました。課外授業では自然遺産に登録されているラムントン国立公園に行ったり、大学の研究所があるノーストラッドブロック島でサンゴ観察をしたりと、たくさんの自然と向き合える研修となりました。そしてクィーンズランド大学の学生には学内やCity*を案内してもらい、ホームステイ先のホストファミリーとは週末お出かけをするなど、交流を通して語学もしっかりと学ぶことができました。今回は3年の徳田絢蘭さんと高橋知花さんに、研修を終えての感想を聞きました。

徳田絢蘭さん

— 参加しようと思ったのはなぜですか？
サークルや部活に所属しているわけでもなく、何かに積極的に取り組んでいるという実感もありません。卒業したくないと思い、短期留学を考えるようになりました。大自然あふれるオーストラリアに研修することで、大学で学んだ知識が深まるとともに、日本では学べない専門知識も身につくと思い、参加しました。

— 思い出に残っていることは何ですか？
自然を守るために、失ったものを取り戻すために、徹底していることがよくわかり、オーストラリアのあの大自然はただの自然ではなく、みんなできつくり、守り続けてきた賜物なのだと思います。

— 研修を振り返って、興味を持ったことは？
私の学科は様々な分野の勉強をしていますが、今回の留学で、自然環境の分野にも興味を持てた気がします。また、各国での文化の違いにも興味を持ち



オーストラリア クィーンズランド大学 環境保全&英語研修

*オーストラリアでは中心街のことを一般的に「CITY」と呼んでいます。



ました。様々な文化の違いに驚かされ、学んだ2週間でした。広大なオーストラリアを2週間で知るにはとても短すぎたので、是非また行きたいです。

— ありがとうございます。

高橋知花さん

— 課外授業の内容を教えてください
ラムントン国立公園では主に公園の散策と保護に関する施設を回りました。有袋類の1つであるパディメロンが生で見れて良かったです。ノーストラッドブロック島は海がとてもキレイでした。野生のイルカやエイ、海がめが泳いでいるところを見ることができました。午後のサンゴ観察も楽しかったです。

— 研修を振り返って、楽しかったことはありますか？
学校の授業で時間が余ると先生が学内のカフェに連れて行ってくれました。授業以外で先生と世間話みたいのできるのが楽しかったです。また、授業終わった後や休みの日にみんなでCity*まで出て買い物しました。道端ではパフォーマンスやイベントをやったりしておもしろかったです。

— ホームステイ先での思い出はありますか？
私は、ホストマザー、娘2人、息子1人の家に泊まりました。最終日には私たちが日本料理を作りました。作った唐揚げが美味しかったからと、レシピを教えて欲しいとまで言われました。お礼ができてよかったです。また、最終日の夕食後に野生のカンガルーを見に連れて行ってくれました。人間に慣れているのか、かなり近くで見ることができ、とても思い出に残っています。

— ありがとうございます。

(担当/小柳)



interview

インターンシップに行ってきました!

若手職員の方々と

同じ目標に向かって活動できたのは
貴重な経験だと思いました。

家政学部 環境教育学科 3年 松本 茉奈 さん



—— インターンシップに参加した理由を教えてください。
一般企業に就職するか、公務員を目指すかで悩んでいたのですが、その業界について自分と合うのか、ひとつでも多く学べるのがあればと思い参加しました。

—— インターンシップに参加する前に準備をしたことはありませんか?
私は業界研究も含めての参加でしたので、特に事前準備はしなかったです。参考として、前年度に行われていたインターンシップを一通り見ました。

—— インターンシップで体験した内容を教えてください。
長期で北区のPR動画作成を行いました。前半はまず北区について知識をつけるために街歩きからスタートしました。後半は各グループに分かれ、企画を一から練って、出来上がったなら、実際に撮影場所に行き動画撮影を行いました。その後は編集作業を行い完成という流れでした。

—— インターンシップに参加して学んだこと、感じたことはありますか?
私は学内の長期インターンシップに申し込んだため、他学科・他学年のインターンシップ生の方や、実際に働いている北区の若手職員の方々と同じ目標に向かって活動できたのは貴重な経験だと思いました。

(担当/根津)

生活環境学研究室では4年生8名、3年生12名で活動しています。私達の研究室では生活における諸問題を取りあげながらその改善法を含め、より快適にするための提案をしています。衣食住環境、化粧品及び医薬品などに着目してみると“生活の中の諸問題”がみえてきます。各自の卒業研究テーマを進めながら研究室のテーマとして今回私達は学内にあるファミリーマートと提携してレジ袋削減プロジェクトを開始しました。具体的にはポスターの作成による学生への警鐘を鳴らし、レジ袋削減を促すことを目的としています。そして最終的にプロジェクトを通じて本校生徒の意識を変え、各個人が先導をきり、環境問題に向き合っていくことが目標であります。

ラゲなどのエサと間違えて体内に取り込んでしまいます。取り込まれたレジ袋などのプラスチックは、マイクロプラスチックと同様に体内で分解されず、生物の生存を脅かし生態系にも影響を与えています。マイクロプラスチックはプラスチック製品のみならず、私達が普段使っている歯磨き粉や洗顔料に含まれていたこともあり、誰にとっても関係がある問題です。だからこそ私達が向きあっていかないといけないのです。

(担当/小柳)

このプロジェクトを開始した背景としてはマイクロプラスチックの問題があります。マイクロプラスチックとは5mm以下のプラスチック破片のことをいいます。プラスチックは、熱が加えられたり太陽の光があたったりすると、もろく砕けやすくなります。日のあたるベランダに長いあいだ出しておいたプラスチックのプランターが、簡単に割れてしまうのと同じことです。マイクロプラスチックは生物にとって有害な成分を吸着しやすい性質があり、体内で分解が難しいのです。そしてこの破片が海に流出すると魚に取り込まれ、生物濃縮によってマイクロプラスチックの濃度が生体上位になるほど高い濃度になっていきます。一方普段の買い物に使用されるレジ袋は海に流出すると、生物がク



私

レジ袋減らし隊!

誰にとっても関係がある問題だからこそ私達が向きあっていかないとイケないのです。

環境教育学科 3年 本田 莉慧 さん





研究室



これから研究室配属される1・2年生へ向けて、研究室を選ぶ際の参考となるよう、さらにそれぞれの研究室の違いを知ってもらえるよう、先生方に質問してみました。

質問 ① どの教科を基盤にして研究していますか？
② どんな進路に進む人が多いですか？

片田 研究所



A. ① 生物学、生態学 ② 公務員、造園関係業、花市場など

井上 研究所



A. ① 化学 ② 総合職、事務職、業界はいろいろ アドバイス 一般常識、マナーを身につけておく

池田 研究所



A. ① 基礎となるのは国語力そこから化学に繋がる ② サービス業、技術営業

二川 研究所



A. ① 社会科(歴史的分野、公民的分野) ② 教員志望の生徒が多い アドバイス
大学での学びとともに、教員や公務員、志望者の多い特定の職種を志望する学生は2年頃から気持ちを固めて準備しておくが良い

藤森 研究所



A. ① 国語(母国語)これがあって発展させていく ② 教員、商品開発(食品)、検査機関

新関 研究所



A. ① 情報関係 ② 総合職、企業の情報部門、SE、銀行系 先生から一言 みんなのために頑張ることが、自分のためになる

吉原 研究所



A. ① 生活環境論 ② 金融、食品関係、公務員

宮本 研究所



A. ① 経済や社会に興味を持ってほしい ② 企業の一般職、教育系、観光系

松木 研究所



A. ① 情報科学概論 ② SE

編 | 集 | 後 | 記

「環境教育REPORT」Vol.8をお読みいただきありがとうございました。今年にはメンバーが大きく入れ替わったことで、今までにはない新しい仕上がりになっていると思います。取材にご協力いただきました皆様、ご指導・ご協力いただきました当大学の吉原富子先生に感謝いたします。また、お会いしましょう。来年度の発行もお楽しみに！



前列：大森 恵理奈(3年) 根津 美佐(3年)
(左から) 小柳 佳奈子(3年) 鈴木 琴巳(3年)
後列：狩野 朱音(2年) 甲賀 富士子(1年)
(左から) 安田 京加(2年) 常盤 明日香(1年)

次号の発行は
2020年3月17日です!!
お楽しみに!!

会員情報・連絡

「環境教育REPORT」は年刊です。来年の春にまた皆さまの元へお届けいたします。
◎連絡先が変更になられた方は、必ず下記までお知らせください。

編集委員募集

「環境教育REPORT」の編集・発行に参加してみませんか。編集委員を担当してくださる方を募集しています。また、環境情報学科・環境教育学科を卒業された先輩方、環境教育の現場で現役の皆さま、ご参加をお待ちしております。担当してくださるという方は下記までご連絡をお願いします。

朋翠会連絡先

〒173-8602
東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学
生活環境学研究室・吉原 富子
TEL: 03-3961-4286
E-mail: yosihara@tokyo-kasei.ac.jp



キャンパス内の
シロツメクサ
撮影：小柳佳奈子